

Daily Macro Economic Insights

企業物価指数(2024年11月速報) —企業物価指数の伸びはじわり加速—

PwC Intelligence チーフエコノミスト、上席執行役員 片岡 剛士
シニアエコノミスト 伊藤 篤



国内企業物価指数は前月比+0.3%、前年比は+3.7%と引き続き加速

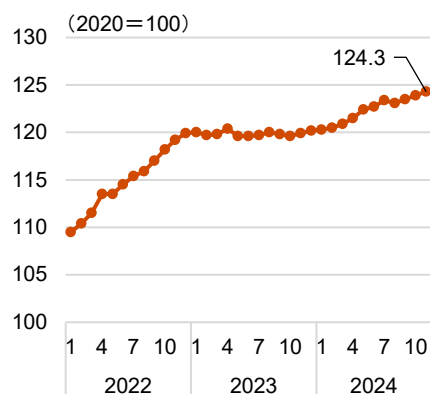
日本銀行から11月の企業物価指数が公表された。結果をみると、国内企業物価指数が前月比0.3%(前年比+3.7%)、輸出物価指数は、円ベースで前月比+1.7%(前年比+2.2%)、契約通貨ベースで同+0.2%、輸入物価指数は、円ベースで前月比+1.5%(前年比-1.2%)、契約通貨ベースで同-0.5%となった。輸入物価指数の前年比は引き続き伸びを弱めている。国内企業物価指数につき前月比で大きく上昇した品目をみると、電力・都市ガス・水道(寄与度+0.17%ポイント)、農林水産物(同+0.09%ポイント)といった品目の伸びが大きい。逆に生産用機器(同-0.02%ポイント)、金属製品(同-0.02%ポイント)、鉄鋼(同-0.01%)が下落している。図表2は企業物価指数の推移をみているが、今年に入り水準が切り上がったものの、7月以降は伸びが鈍化している。輸出入物価指数(図表3、4)は契約通貨ベースで見ると横ばい基調にあるが、円高から円安にふれたことで、11月の円建て輸出入物価指数は引き続き上昇している。

図表1: 企業物価指数の概要

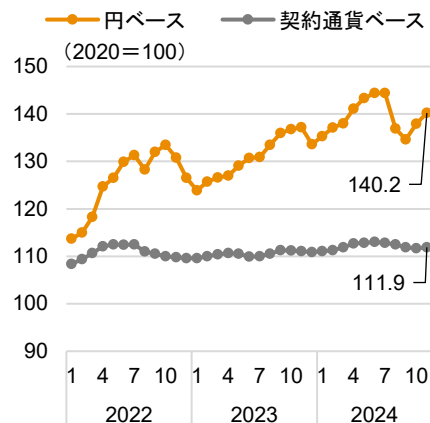
(単位: %)

		国内企業物価指数		輸出物価指数				輸入物価指数				
				円ベース		契約通貨ベース		円ベース		契約通貨ベース		
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
2023年	4	0.5	6.1	0.3	1.8	0.3	-1.2	-2.9	-3.7	-2.6	-7.3	
	5	-0.7	5.4	1.7	2.1	-0.2	-1.8	2.1	-5.4	-0.2	-9.6	
	6	0.0	4.5	1.2	0.6	-0.5	-2.2	-1.7	-11.7	-3.5	-14.6	
	7	0.1	3.7	0.2	-0.3	0.1	-2.2	-0.6	-14.7	-0.8	-16.3	
	8	0.3	3.5	2.0	4.1	0.5	-0.5	1.4	-11.6	-0.5	-15.8	
	9	-0.2	2.4	1.9	3.0	0.7	0.7	2.1	-14.3	0.6	-15.8	
	10	-0.2	1.2	0.6	2.5	-0.1	1.1	2.6	-11.8	1.6	-12.6	
	11	0.3	0.6	0.3	4.9	-0.1	1.2	0.5	-6.4	0.2	-10.0	
	12	0.3	0.3	-2.6	5.6	-0.2	1.2	-3.2	-5.0	-0.2	-9.6	
	2024年	1	0.1	0.2	1.3	9.2	0.2	1.4	0.6	-0.1	-0.8	-8.7
		2	0.2	0.7	1.3	9.1	0.2	1.2	1.3	0.4	-0.1	-8.2
		3	0.3	0.9	0.7	9.0	0.5	1.4	-0.2	1.7	-0.3	-6.5
4		0.5	0.9	2.2	11.1	0.7	1.8	2.1	7.0	0.1	-3.9	
5		0.7	2.3	1.6	11.0	0.1	2.1	2.3	7.1	0.9	-2.9	
6		0.2	2.6	0.8	10.5	0.2	2.8	0.6	9.6	-0.2	0.5	
7		0.6	3.1	0.0	10.3	-0.2	2.5	0.4	10.7	0.2	1.5	
8		-0.2	2.6	-5.2	2.5	-0.3	1.8	-6.2	2.5	-0.4	1.6	
9		0.3	3.1	-1.7	-1.0	-0.5	0.5	-2.8	-2.5	-1.3	-0.4	
10		0.3	3.6	2.5	0.8	-0.2	0.4	2.9	-2.2	-0.2	-2.2	
11		0.3	3.7	1.7	2.2	0.2	0.7	1.5	-1.2	-0.5	-2.8	

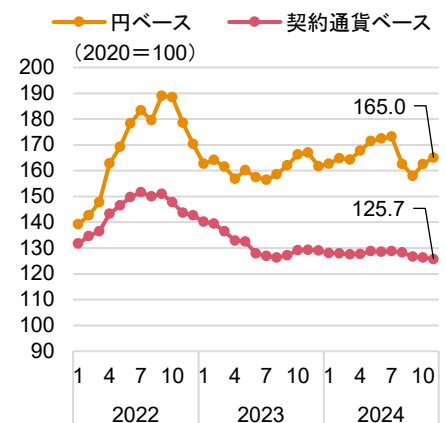
図表2: 国内企業物価指数の推移



図表3: 輸出物価指数の推移



図表4: 輸入物価指数の推移

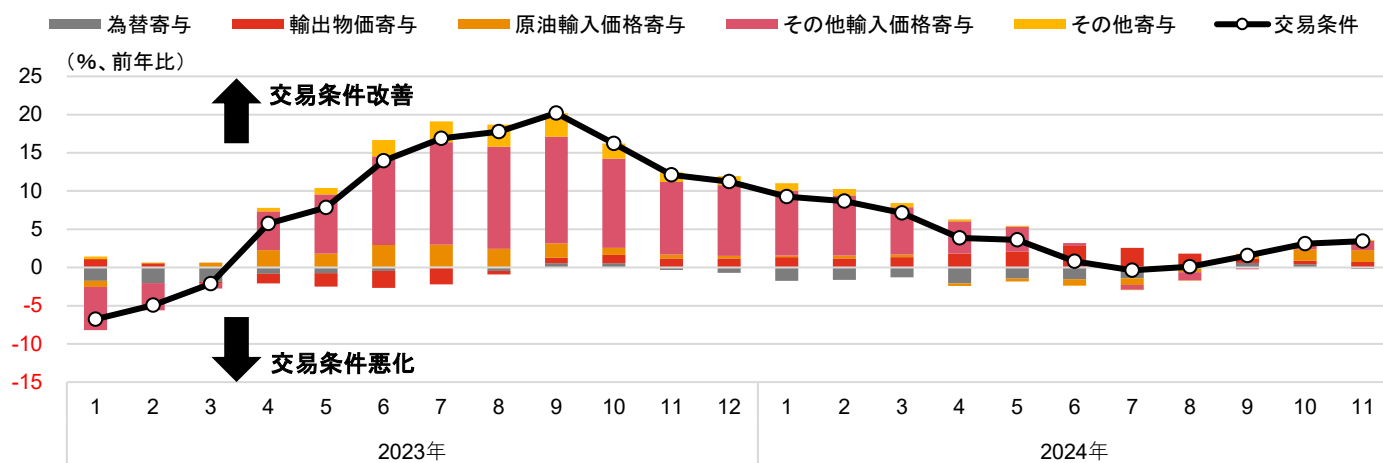


出所: 日本銀行「企業物価指数」より筆者作成。

輸入価格減少と円高の影響により、交易条件は改善が進む

図表5は交易条件(輸出物価指数÷輸入物価指数)の前年比を折れ線で、交易条件に影響する輸出物価指数、輸入物価指数(いずれも契約通貨建て)、さらに為替レートの影響を寄与度の形で示している。交易条件は2023年4月に前年比プラスとなり、2024年7月に一旦前年比マイナスとなった。11月は前年比+3.4%と改善度合いを強めている。11月の交易条件変化の内訳をみると、その他輸入価格の寄与が+1.2%ポイント、原油輸入価格の寄与が+1.5%ポイント(プラスは輸入価格の低下を示す。いずれも逆符号)と、原油価格の下落が交易条件の改善に寄与している。また、為替の寄与は-0.2%ポイントと9月及び10月とは異なり、交易条件の悪化に寄与している。なお、輸入物価指数前年比は契約通貨建てでみると前年比-2.8%と減少が続く。円建てでは同-1.2%と9月・10月と比べややマイルドとなった。契約通貨建てと円建ての輸入価格前年比の差分1.6%ポイントが円安による輸入物価の押し上げげ分だが、契約通貨建ての輸入価格の下落が大きいため、今のところ円建ての輸入価格上昇にはつながっていない。

図表5: 交易条件変化(前年比)と寄与度の推移



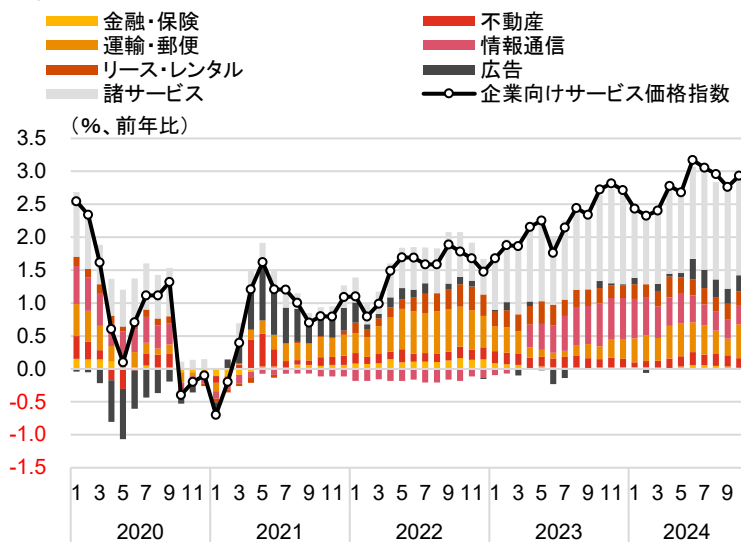
出所: 日本銀行「企業物価指数」より筆者作成。為替寄与は交易条件指数(円ベース)前年比と交易条件指数(契約通貨ベース)前年比の差として計算している。原油輸入価格寄与は原油輸入価格(契約通貨ベース)前年比に原油の輸入品目全体に対するウェイトを乗じて計算した値。その他寄与は為替要因と輸出入物価要因の積として定義される寄与。

10月企業向けサービス価格は前年比+2.9%とやや持ち直し

企業向けサービス価格指数は、企業間で取引されるサービスについての物価指数である。これは需給ギャップとの相関が高く、景気変動に対し敏感に動く傾向が強いことが知られている。図表6は企業向けサービス価格指数の前年比を折れ線グラフで、企業向けサービス価格指数を構成する各サービスの寄与度を棒グラフで示したものである。10月の総平均は前年比+2.9%となり、前年比+2.8%となった9月からわずかに持ち直して2%台後半の伸びを維持している。

内訳をみていくと、前月と比較して、運輸・郵便の伸びが強まっているが、全体の傾向には大きな変化はない。サービス価格の拡大幅が広がり、そのトレンドが続くことが日銀が掲げる物価安定目標達成のためにも必要である。引き続き企業向けサービス価格の上昇がさらに強まる必要があると言えよう。

図表6: 企業向けサービス価格前年比と各サービスの寄与度の推移



出所: 日本銀行「企業向けサービス価格指数」より筆者作成。

片岡 剛士

チーフエコノミスト、上席執行役員

PwC Intelligence

PwCコンサルティング合同会社

伊藤 篤

シニアエコノミスト

PwC Intelligence

PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク

<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

PwCコンサルティング合同会社 PwC Intelligence

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel:080-7536-2745

©2024 PwC Consulting LLC. All rights reserved. PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details. This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.